
遊戯王GX オリカで無双

煤けた中二病

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX オリカで無双

【Nコード】

N0969U

【作者名】

煤けた中二病

【あらすじ】

どうも、一堂悠里です。

何かしらぬまに遊戯王GXの世界にトリップしました。ついでになんか最強っぽいオリカつきです。

とりあえず、がんばって無双したいと思います。

第一話、トリップしたオリカとオリ主（前書き）

どうも、勢い余って作ってしまいました。

暇つぶし感覚でお読みください。

新カード募集中です。

なつべく「蒼穹の」（ブルーヘヴン）とつくカードをお願いします。
それでは、どうぞ。

修正しました（6 / 16）

第一話、トリップしたオリカとオリ主

どーも、一堂悠里です。トリップしました。

……いや、頭が逝かれたわけじゃないよ。

ほんとに気がついたら遊戯王GX世界にいたんだよ。

確証はって？

腕にデュエルディスクがついていたからたぶん間違いないと思うよ。

ついでに、なんかクロノスって先生が「名誉挽回なのーネ、ドロップアウトボーイなんて叩きのめしてやりますーノ」とかいつてこっちにデュエルを申し込んできてるし。

遊戯十代に負けたのが悔しかったのかね？因みにオレの受験番号は145番。

……それって、いいの？悪いの？

たぶん、悪いんだろうねえ

ホント、なんだかなー

「デュエルですーノ!!」 「……デュエル」

うん、もうやけくそです。

悠里LP4000

クロノスLP4000

「わたしの…「俺の先攻、ドロー」ムう…」

先攻なんて取らせません。だって……
「なんじゃい、このカードは……」

うむ。実は俺の手札には見たこともないようなカードが並んでいる。ぶっちゃけどう戦えばいいのかわからん。
まあ、なるようになりますか。

「俺は手札を1枚捨てて、蒼穹の小鳥を特殊召喚します。」
フィールド上に青い小鳥が現れる。
……ソリットビジョン、スゲー

蒼穹の小鳥 ブルーヘヴン・バード

効果モンスター・ヘヴン / 1 / 光属性 / 鳥獣族 / 攻0 / 守0
このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。手札を1枚捨ててこのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。このモンスターをリリースすることでカードを2枚ドロウする。

「何でスーノ？そのカードは？」うん、俺も知らないよ。
「そして、このモンスターをリリースすることでカードを二枚ドロウします。」

青い小鳥がこっちに飛んできて墓地に入っていく。

クロノス教官が首をひねっている。

ああ、この世界にはまだリリースという言葉は無かったか。以後は墓地に送ると言おう。

それはそれとして……、ああ、大体このデッキの使い方がわかってきた。

「俺は蒼穹の兵士を攻撃表示で召喚します。更に蒼穹の兵士の効果で手札を1枚捨て、カードを2枚ドロウ。」

……青い軍服を着たりアルな眼帯の女性軍人が現れる。なぜに！
？なににリアル軍人！？

蒼穹の兵士
ブルーヘヴン・ソルジャー

効果モンスター・ヘヴン / 4 / 光属性 / 戦士族 / 攻700 / 守700

このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。このモンスターがフィールド上から離れるとき、装備カードを破壊することで、再度特殊召喚する。このモンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功したとき次から効果を一つ選択して発動する。●手札を1枚墓地に送りカードを2枚ドロウする。●墓地の魔法カードを2枚除外し除外されているモンスター1体をこのカードに装備魔法カードとして装備する。このモンスターの攻撃力・守備力は装備したモンスターの攻撃力・守備力分アップする。

「ふーん、そんな雑魚カードを攻撃表示で召喚するナインテ、やはり貴方はドロップアウトボーイでスーノ。」

無視だ、もう無視。相手をするのがめんどくさい。

「そして、カードを4枚伏せターンエンドです」

悠里LP4000

モンスター：蒼穹の兵士（攻・守/700）

魔法・罫：伏せカード4枚

手札：2枚

「私のターンナノーネ、ドローナノーネ」

そこで、クロノスはにやりと笑う。なんかいいカードでも引いたか？

「私は手札から歯車街を発動しまスーノ、そして古代の機械獣を攻

撃表示で召喚しまスーノ。そして、魔法カードサイクロンを発どー
う、齒車街を破壊して古代の機械巨竜を特殊召喚ナノーネ。」
うおおー、やべえ。かなり怖い。さすが、攻撃力2000と3
000。

でも、勝たせてもらいますね。

「その瞬間、速攻魔法、蒼穹の開放を発動、俺は蒼穹の兵士を選択
します。そして罨カード蒼穹の抜け道を発動します。その効果で蒼
穹の兵士を墓地に送り、………デッキから蒼穹の夜天竜を特殊召喚
します。」

ブルー・ヘヴン・オープン
蒼穹の開放

速攻魔法

自分フィールド上のヘヴンモンスター1体を選択して発動する。
このターン選択したモンスターのレベルは5になり、相手の魔法・
罨・効果モンスターの効果を受けない。

ブルー・ヘヴン・ワープ
蒼穹の抜け道

通常罨

このカードは墓地では魔法カードとして扱う。このカードの発動
は相手フィールド上の魔法・罨・効果モンスターの効果で無効にさ
れない。手札を1枚捨て、自分フィールド上のレベル5以上のヘヴ
ンモンスターを1体墓地に送り、デッキからレベル6以上のヘヴン
モンスターを1体、特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたモン
スターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

ブルー・ヘヴン・ナイトスカイ・ドラゴン
蒼穹の夜天竜

効果モンスター・ヘヴン／ 9 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻300
0 / 守2300

このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。このモンスタ

ーの攻撃力は自分の墓地に存在する魔法カードの数×500ポイントアップする。このモンスターがフィールド上から離れるとき墓地に存在する魔法カードを1枚除外して再度特殊召喚する。このモンスターは相手の魔法カードの効果を受けない。

ギャラリーから「何だあいつは」とか「すごい」とか「あの11番おもしろいわね」とか「すげー」とかが聞こえる。

お前ら俺の元の世界行けよ、絶対絶望するから。
ついでにクロノスはずっと黙ったままだ。たぶん知らないカードが多すぎて流れに身を任せることにしたんだろう。

まあ、このままでは終わらんよ。

「更に罠カード蒼穹の戦争を発動します。この効果は……簡単にいうと相手フィールド上のモンスターはこのターン、蒼穹の夜天竜に攻撃しなければなりません。」

「何ですート!!???」

ブルー・ヘヴン・ウォー 蒼穹の戦争

通常罠

このカードは墓地では魔法カードとして扱う。自分フィールド上にヘヴンモンスターが存在するときに発動できる。相手フィールド上のモンスターカードはすべて表側表示になる。相手プレイヤーはこのターン、攻撃可能なモンスターが存在する場合、攻撃可能なモンスターはフィールド上に存在する一番レベルの高いヘヴンモンスターに必ず攻撃しなければならない。

「と、いうわけで、古代の機械巨竜・古代の機械獣は蒼穹の夜天竜に攻撃してください。」

「フン、でスーが、そのモンスターは古代の機械巨竜と相打ちになりませんよ」ナゼでスーノ?」

「蒼穹の夜天竜の効果です。このモンスターの攻撃力は自分の墓地の魔法カードの数×500ポイントアップします。いま、墓地にある魔法カードの数はヘヴンモンスターを合わせて8枚。よってこのモンスターの攻撃力は4000ポイントアップして7000。チェックメイトです。クロノス教官。」

「ペペロンチーノオ!？」

古代の機械巨竜 / 攻撃力3000 - 蒼穹の夜天竜 / 攻撃力7000
|| - 4000

古代の機械獣 / 攻撃力2000 - 蒼穹の夜天竜 / 攻撃力7000 ||
- 5000

クロノスLP4000 ↓ - 5000

「ありがとうございました。」

一応、礼をしてからフィールドから降りる。周りからの拍手がウザイ。

先攻相手初ターンワンキルってそんなに珍しいのかな。

ってか、この「蒼穹の」ってシリーズはチートだな。やばすぎる。今の使わなかった伏せカードだって蒼穹のバースト・レイってカードだった。

因みにその詳しい説明は、

蒼穹のバースト・レイ（ブルーヘヴン・バースト・レイ）

速攻魔法

「蒼穹の夜天竜」が自分フィールド上にあるときのみ発動できる。相手フィールド上のモンスターカードをすべて除外する。この魔法カードを発動したターンのエンドフェイズ時に自分フィールド上の「蒼穹の夜天竜」を墓地に送る。

うん、いいたいことはわかるよ。ものすごいチート。

このターンに蒼穹の夜天竜を墓地に送るって言ってるけどさ、蒼穹の夜天竜の効果で復活しちゃうし。

はつきりいって、このシリーズが世界最強なんじゃないかな？

まあ、何はともあれ、ものすごく面倒臭かった。さて、これからどうしますかね。

……まあ、なるようになりますか。

第二話、自重？するわけない！

「何だ……、このチートデッキは……」

デュエルアカデミアに向かう船の中で俺は呆然としてつぶやいた。

……いや、ね。

翌日、船になることになったから船の中でデッキとかを確認してただけどさ。

改めて見ると、ほんとにチートだわこのデッキ。
手札事故防止用にかなりの数のドロカードが入っているのが一番の特徴だろうか、そもそもこの「蒼穹の」ってシリーズが強すぎる。たぶん遊戯十代とかカイザー亮とかあたりにだったら余裕で勝てると思うよ。

まあ、王様とか某社長さんとかに勝てるかは微妙だけど。
あの人たちのチートドロは庶民の想像を超えている。

ついでというか、そのときの自分の荷物を見たらほぼ全種類のカードが3枚ずつトランクの中に入ってた。
これって、「てんぷれ」って奴なのかね。詳しくは知らんが……

「よお、145番。先日のデュエルは凄かったな。」

と、思い悩んでいると受験番号一番、未来のエアーマンこと三沢大地が声をかけてきた。

「145番じゃない。一堂悠里だ。若干嫌味に聞こえるぞ……」

「…そうか、すまん。俺は三沢大地だ。」

まあ、そんなに嫌いなキャラじゃなかったし、そこそこ仲良くしましょうかね？

厄介ことは嫌いだが。

「にしても、クロノス教官に相手のターンでワンターンキルするなんてお前ぐらいじゃないか？」

「半分以上は運だよ。手札が凄くよかったからな。だれでも、あれぐらいはできるさ。」

「そういうものか？まあ、これからよろしく頼む。」

そういつて差し出されて右手に普通に握手する。

俺はオシリスレッドかって？ちゃうねん、なんかあのあと校長先生に呼ばれて校長とデュエルした後攻ワンキルきめたらなんかライエローになった。

うん、サイバーデツキだったけどあんま関係なかったよ。伏せカード撃破してから「蒼穹のバースト・レイ」で抹殺そんで「蒼穹の夜天竜」のパワーでごり押ししました。

と、そんなこんなを考えながら適当に三沢と話していたらデュエルアカデミアにつきました。

蒼穹なのにライエローとはこれいかに……

そして、放課後。

いえい、万条目にアンティデュエルに呼び出されたぜ

なんかね、俺がこの世界に来た影響なのか遊戯十代が遅刻しなかったらしいんだわ。まあ、それでも筆記テストが0点だったからクロノスと戦ったんだそうだけだね。

それで、十代よりも俺のほうが生意気だと。

あと、デュエル内容もかなり競り合って勝ったらしいよ。ぜんぜん違うね。

ん、ああ、万条目に関してはこっちが校長の長い話を終えて適当に散歩してたらいきなり突っかってきてさ、イラついたから馬鹿

にしたら申し込まれちゃったんだわ。

十代もその場にいたのにね。何で俺が……

超、面倒臭いよね。

まあ、一応行きますが。……

「遅いぞー！」

いやあ、待ち合わせの時間・場所に行ったら万条目&取り巻きズがいました。

でもねえ、俺は万条目は嫌いなんだよね。万条目サンダーは結構気に入っているけど。

だから、遠慮なく行かせてもらっね。

「デュエルだ！」「デュエル」

万条目LP4000

悠里LP4000

って、いうか天上院さんや。もうちょっとうまく気配を消せないもんですかね。

「俺の先攻。ドロー」

っと、考え事してたら先攻取られちゃったよ。

さて、この世界の万条目はどんなデッキを使うのかね。

「俺は魔法カード二重召喚を発動。手札から仮面龍を召喚し、仮面龍を生け贄に捧げ手札からアームド・ドラゴンLV5を攻撃表示で召喚だ。さらに魔法カード、レベルアップ！。この効果でアームド・ドラゴンLV5を墓地に送り、デッキからアームド・ドラゴンLV7を攻撃表示で特殊召喚する。更に早すぎた埋葬を発動。800ライフポイントを支払い、アームド・ドラゴンLV5を攻撃表示で特殊召喚する。」

おお、アームド・ドラゴンデッキですか。……速攻で終わります

ね。

「更に俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ。どうだ！見たか！これがオベリスクブルーの実力だ！」

どこがやねん。そのくらい、元の世界だったら小学生でもできるぞ？ドロー面で無理だが。

万条目LP3200

モンスター：アームド・ドラゴンLV7（攻2800/守1000）
、アームド・ドラゴンLV5（攻2400/守1700）

魔法・罠：早すぎた埋葬、伏せカード1枚

手札：0枚

「俺のターン、ドロー」

……うん、終わったね。

「俺は、手札を1枚捨て蒼穹の小鳥を特殊召喚します。そのとき、墓地に送った蒼穹の子猫の効果を発動します。カードを2枚ドロー。」

初登場しました。このデッキの真の最強カードといっても過言じゃない化け猫が。

蒼穹の子猫
ブルー・ヘヴン・キャット

効果モンスター・ヘヴン / 2 / 光属性 / 獣族 / 攻300 / 守300

このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。●このモンスターが手札から墓地に送られたとき、デッキからカードを2枚ドローする。●このモンスターがフィールド上から墓地に送られたとき、フィールド上のカードを1枚破壊する。●このモンスターが墓地から除外されたとき、このモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。●このモンスターが手札・フィールド上から除外されたとき、

相手の手札をランダムに3枚捨てさせる。

「蒼穹の小鳥を墓地に送り、2枚ドロー。っと、もう一度手札を1枚墓地に送り蒼穹の小鳥を特殊召喚する。」

青い小鳥が墓地へ入ってからもう一度、青い小鳥が現れる。

「蒼穹の小鳥を生け贄に捧げ、蒼穹の魔術師を攻撃表示で召喚。更に装備魔法、蒼穹の魔道を蒼穹の魔術師に装備。」

コイツも初登場だな。マジシャン。

ブルー・ヘヴン・マジシャン
蒼穹の魔術師

効果モンスター・ヘヴン / 6 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻2700 / 守2000

このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。このモンスターは相手の魔法・罠カードの効果では破壊されない。このモンスターの攻撃宣言時、手札を1枚墓地に送ることでフィールド上に裏側表示で存在するカードを1枚破壊する。

ブルー・ヘヴン・マジック
蒼穹の魔道

装備魔法

このカードを装備したモンスターの攻撃力は700ポイントアップする。このカードを装備した「蒼穹の魔術師」が攻撃するとき相手フィールド上の魔法・罠ゾーンの伏せカードをすべて破壊する。このとき相手は魔法・罠ゾーンの伏せカードを発動することはできない。

「攻撃力3400だっ!!」

「更に、手札から魔法カード魔法石の採掘。手札を2枚墓地に送り蒼穹の小鳥を手札に加える。また手札を1枚墓地に送り、蒼穹の小鳥を特殊召喚。再び蒼穹の小鳥を墓地に送りカードを2枚ドロー。天使の施しを発動。デッキからカードを3枚ドローして2枚を墓地

に送る。更に強欲な壺、カードを2枚ドロ―。」

……うわぁ、この手札も酷いな。無論、相手にとって。

「再び、魔法石の採掘を発動。手札を2枚墓地に送り墓地から蒼穹の幽霊を手札に加える。」

よし、これで完全にワンキル達成だな。

「バトルフェイズ。蒼穹の魔道を装備した蒼穹の魔術師でアームド・ドラゴンLv7に攻撃。そしてその瞬間、手札の蒼穹の幽霊を墓地に送り、蒼穹の幽霊の効果発動。このターン、蒼穹の魔術師の攻撃力・守備力は自分の墓地にある魔法カードの数×300ポイントアップする。いま、俺の墓地には14枚の魔法カードが存在する。そのため、 $14 \times 300 = 4200$ ポイントアップ。蒼穹の魔術師の攻撃力は合計7600だ。」

「だが！その瞬間炸裂装甲を…「発動することはできない」なぜだ！」

「蒼穹の魔道の効果だ。このカードを装備した蒼穹の魔術師が攻撃するとき、相手は魔法・罨伏せカードを発動できず、破壊する。因みに、蒼穹の魔術師自身の効果でも魔法・罨カードの効果では破壊されない効果がある。よって、攻撃は続行。ヘヴン・マジック。」

蒼穹の魔術師 / 攻撃力7600 - アームド・ドラゴンLv7 / 攻撃力2800 = 4800

万条目LP3200 ↓ - 1600

「そんな……、この俺が……」

……ふう、このデッキ本気で凶悪だな。しばらく使用を控えるか？
……意味はないな。この爽快感は病み付きになりそうだ。

もともと、俺はワイト使いだがそれだって単純に最大攻撃力とかを上げやすかったからだしな。

「アンティカードはいらん。俺はとっとと帰って寝る。二度とこんな時間に呼び出すな。万条目。」

「万条目さんだ……」「万条目さん」「万条目さん……」……大丈夫ですか……」

……取り巻きズ、どうせなら一度に言えよ。なぜわけた。なんか、かなりぐだぐだだな……

……しょうがない、手加減用にもう一回ワイトデッキを組もう。それでも、この世界では凶悪だし。

こういう奴らのプライドをへし折るにはちょうどいい。

「すばらしい。デュエルね……」

うん、なんでかね。天上院妹さんのつぶやきなんて聞こえない。はあ、かえって寝よう。

その後、ガードマンに見つかりそうになって一人で逃げまくったことだけは、万条目を恨んでもよろしいでしょうか？

第三話、十代とデュエル！

万条目とのアンティデュエルの翌日

「おーい！ここを開けてくれー！」

……………うん。何なんだろうねこの状況は。
ん？どんな状況だった？

今ね…………、遊戯十代がライエロー寮の窓にへばりついてるんだ。
何で十代はそんな事してんだって？簡単だよ？

「おーい！デュエルしようぜー！」

と、いうことです。あんまり無視もかわいそうなので一応窓を開けて中に入れてあげます。

デュエル馬鹿が…………、学校終わって直ぐにきましたよ。

昨日は歓迎会とかで某水色君に止められてこれなかったそうです。

ん？水色は嫌いですよ。

理由？なんとなくです。

と、いうかこっちは少々寝不足なのですけれど？

もうちょい休ませろっちゅーの。

「さあ、デュエルだ。」

……………はあ。

そして、私と十代は外に出てきました。

さすがに中でソリットビジョンを使うわけにはいきませんから。

「デュエルだ！」「デュエル」

十代LP4000

悠里LP4000

「俺の先攻、ドロー！」

うん？先攻は譲ってますよ？

そうでもしないとホントにワンパターンの詰みデュエルになりますから。

「俺は手札から融合を発動。手札のバーストレディとウイングマンを融合。現れる！フレイムウイングマン。そして、カードを2枚伏せてターンエンドだ。」

十代LP4000

モンスター：E・HEROフレイム・ウイングマン（攻2100 / 守1400）

魔法・罫：伏せカード2枚

手札：1枚

うん、1ターン目から手札での融合ですか。

まあ、E・HEROなら普通ですかね。

まあ、もっとチートドローな人もいますし。

「俺は魔法カード天使の施しを発動します。カードを3枚ドローして2枚を墓地に送ります。更に、手札から墓地に送った蒼穹の子猫の効果で更にカードを2枚ドローします。」

……やっぱ、十代はいい奴ですね。

こついうカードって、手札交換カード扱いでこの世界ではあまりよい印象が無かった気がするのですが、十代は素直に感心してくれます。

やっぱこのデュエルが、終わっても親しくしたいものですね。ですが、あまり手札がよくないですね。

「更にモンスターを1体セット。まずは魔法カードおろかな埋葬とサイクロン。デッキからモンスターカードを1枚墓地に送り、十代の伏せカードを1枚破壊です。そして、カードを3枚伏せターンエンドです。」

初めて初ターンキルじゃありません。

主人公補正でしょうか？だとしたら、とても厄介です。

悠里LP4000

モンスター：裏側表示モンスター1体

魔法・罾：伏せカード3枚

手札：2枚

「俺のターン、ドロー！」

「その瞬間、罾カード砂塵の大竜巻です。その伏せカードを破壊してください。そして、俺はまたカードを1枚セットします。」

破壊されたカードは、……聖バリですか。普通ですね。

「くっ…俺は手札からE・HEROスパークマンを攻撃表示で召喚するぜ。」

「では、罾カード停戦協定です。私が伏せていたカードは蒼穹の兵士です。その効果で手札を1枚墓地に送り、カードを2枚ドローします。ついでに停戦協定の効果で1000ライフポイントのダメージを受けてください。」

十代LP4000↓3000

「へっ、そうでなくちゃな。バトルだ！E・HEROフレイム・ウィングマンで蒼穹の兵士に攻撃」

「それも防がせてもらう。罾カード蒼穹の楽園。フレイム・ウィングマンを除外する。」

「なっ！」

軍人さんに攻撃しようとしていたヒーローが寸前で消滅する。

ブルー・ヘヴン・エデン
蒼穹の楽園

通常罨

このカードは墓地では魔法カードとして扱う。自分フィールド上にヘヴンモンスターが存在するときに発動できる。自分の手札を1枚を墓地に送り、相手フィールド上のモンスターを1体このゲームから除外する。この効果で除外されたモンスターはこのターンのエンドフェイズ時にフィールド上に戻る。

「それでも、E・HEROスパークマンで蒼穹の兵士を攻撃だ。スパーク・フラッシュ。」

おいおい。女性に攻撃しちゃダメでしょう。あんだ、仮にもヒーローなんだから。

……悲鳴まで女性なんですネ。

「俺はカードを2枚伏せてターンエンドだ。」

十代LP3000

モンスター：E・HEROフレイム・ウィングマン（攻2100/守1400）、E・HEROスパークマン（攻1600/守1400）

魔法・罨：2枚

手札：0枚

「俺のターン、ドローです。」

おいおい、手札をゼロにしちゃ、……いいんですかね？チートドローがありますしね。

つと、ドローカードは……。

……私もチートドローの仲間入りですか。

「魔法カード強欲な壺を発動。カードを二枚ドローして、罨カード蒼穹のシンフォニーを発動します。」

蒼穹のシンフォニー（ブルーヘヴン・シンフォニー）

永続罨

このカードは墓地では魔法カードとして扱う。1ターンに一度次の効果から一つを選択し発動する。●手札を一枚捨て、デッキからカードを二枚ドローする。●デッキの一番上のカードを墓地に送り、墓地の魔法カードを一枚手札に加える。●除外されているカードをすべて持ち主の墓地に戻す。

「俺は二つ目の効果を発動します。デッキの一番上のカードを墓地に送り、墓地の魔法カードを1枚手札に加えます。」

よし、大体の手札はそろいましたね。

「通常魔法、蒼穹の復活。この効果で蒼穹の兵士を墓地から特殊召喚させます。そして、蒼穹の兵士の二つ目の効果を発動します。その効果で墓地の魔法カードを2枚除外して、たった今、除外した蒼穹の夜天竜を装備します。そして、速攻魔法、蒼穹の開放。その効果でレベル5になった蒼穹の兵士に蒼穹の抜け道を発動します。蒼穹の兵士を墓地に送り蒼穹の魔術師を特殊召喚します。」

舌噛みそうになりますね。

蒼穹の復活

通常魔法

次の効果から一つを選択して発動する。●墓地のモンスター・魔法カード扱いのヘヴンモンスターを1体を自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で召喚されたモンスターは、召喚されたターンのエンドフェイズ時に手札に加える。●除外されているヘヴンモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

フィールド上に現れる青い魔術師。と、いつかこの魔術師は男性なのでしょうか？女性なのでしょうか？

……どっちにも見えますが。

「すげえな。悠里、ワクワクして来たぜ。」

そうですか。でも、これで終わりなのですよね。

「更に蒼穹の夜天竜の効果で墓地の魔法カードを除外して再度特殊召喚です。そして、蒼穹のバースト・レイ。モンスターを一掃します。」

「うわあああああ！」

これで見晴らしがよくなりましたね。

「ついでに魔法カード蒼穹の魔道を蒼穹の魔術師に装備。全員でダイレクトアタック。チェックメイトです。」

「え、う、うわあああああああああああ！！！」

蒼穹の夜天竜／攻撃力8500

蒼穹の魔術師／攻撃力3400

十代LP3000↓-8900

はあ、疲れましたね。もう、寮に戻って……

「つててて、ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ。」

いや、まあそれは……

「ああ、俺もだよ。」

楽しかったっていえば、かなり楽しかったですね。

初めて、数ターン持ちましたし。蒼穹の夜天竜の最大攻撃力も更新できましたし。

「また、やろうな。悠里」

……ああ、いつの間にか名前と呼ばれてますね。

まあ、嬉しいからよいですが。

「ああ、またやろうな。十代。」

そういつて、十代はレッド寮に私はイエロー寮に戻っていきました。

……これって、厄介事フラグじゃないですよね？

第三話 十代とデュエル！（後書き）

もっなんか墓地の魔法カードを計算するのがかなりつらいです。

やっぱり、「蒼穹の」シリーズはチートです。

第四話、カードを探せ！（前書き）

閑話みたいなものです。

気楽にどうぞ。

飛ばしても内容は通じます。

第四話、カードを探せ！

こんにちは？一堂悠里だ。

俺は今、持っていたカードを軽くだが漁っていた。

いた。と過去形なのは、今はもう漁るのに夢中になり軽くというレベルではないからだ。

「うぬ？これはダメだろ、いろいろな意味で……」

探してみたらいろいろとまずいカードがありました。

三幻神3枚に三邪神3枚、三幻魔3枚。

さすがにシンクロモンスターやエクシーズモンスターは無かったが、なぜかチューナーモンスターは残っていた。

何はともあれ、これはまずい。

と、いうか。普通は1枚しかない神カードが3枚っていうのはいろいろとまずい。

絶対にコピーカードだと思われる。

これらは見つかったらまずいのでスリーブに入れて、クローゼットの一番奥の金庫もどきに入れておく。

「それから……」

まだ心配の種は残っている。

明らかにこの世界にも元の世界にも存在しないカードが2〜300枚ぐらいあったのだ。

ここでは暫定的にオリカと呼ぶが、このオリカはどれもチートだ。

単体で強力なものも多いし、何よりシリーズで使うと無双的なものがある。

蒼穹シリーズなどがよい例だ。

おそらく、このシリーズに勝てるデュエリストはこの世界には存在しないだろう。

この一週間ほど、この学校のデュエルやプロのデュエルを見ていたが、はつきり言って酷い。

俺自身はあまり強くなかったが、俺と比べても弱いし俺のものと世界の外道の友人のほうが数十倍強いし、数百倍怖い。

ガチロック・図書館エグゾ・ガチビート・カウンター畏凝縮……
エトセトラetc…

すまない、少しばかりトラウマが蘇っていた。

このカードの群れからならば彼の使っていたデッキを再現できるだろう。彼のデッキは使くと相手が立ち直れなくなりそうなので使わないが……

おっと、話が逸れたな。

今確認したオリカは「蒼穹の」シリーズ、E・HEROの強化版のようなもの、「ワイト」専用のカード、「軍隊兵士」シリーズというかなり変わったものや、戦士族の存在しないカード、幻族という自分のライフポイントに関係の深いモンスターシリーズ、「害蟲」という鬼畜カードたち、「ハンター」というモンスターに多くのカードを装備して戦う某モン。ンのようなものもある。

「いろいろと、まずいなあ……」

とりあえずは、かなりの数のカードを確認できたからよしとしよう。

それでもまだ半分なのだな。

とりあえず、ワイトデッキもつくったが基本は「蒼穹の」デッキになりそうだ。

爽快感が結構違うからね。

と、こんな感じで俺は眠りについた。

まあ、この時点で原作とは時間とかいろいろ違うことを理解すればよかったと思った。

第五話、いくぜ！月1デュエル！

さあさあやってきました月1デュエル。

フフフフ、調子に乗って作ったデッキを使うときが来たようだ。
相手はオベリススクブルーの天狗君♪さあ、地獄を見せてあげよう。

「フン、ったくなんで俺が半端者の相手をしなきゃいけないんだよ
！」

フハハハハ、言ってる。そして逝けえ！

「デュエル！！」

悠里LP4000

天狗君LP4000

「先攻はもらうぞ半端者お！俺のターン、ドロー！俺は不屈闘士レイレイを攻撃で召喚。そして愚鈍の斧をレイレイに装備。カードを1枚伏せてターンエンドだ。」

どうだといわんばかりの表情の天狗君。

天狗君

LP：4000

モンスター：不屈闘士レイレイ

魔法・罠：愚鈍の斧（不屈闘士レイレイ）、伏せカード1枚
手札：3枚

……ッハ。雑魚が！

「吾のターン、ドローするぞ。吾は手札から害蟲 ジギをお主のフ

ィールドに通常召喚するぞ。」

害蟲 ジギ

効果モンスター / 1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻2000 / 守0

このモンスターはリリースできない。このモンスターは相手フィールド上に通常召喚する。このモンスターのコントローラーは自分のスタンバイフェイズ時にフィールド上の「害蟲」と名のついたモンスターの数×500のライフダメージを受ける。

「ッハ。なんだ？プレイミスか？半端者。」

「お主が知る必要は無いのだよ愚鈍。手札から害蟲 ジャジャを相手フィールド上に特殊召喚する。更に魔法カード害蟲の卵を発動、デッキから害蟲 ガガを墓地に送り害蟲 ドドイを手札に加える。そしてお主の不屈闘士レイレイを墓地に送り害蟲 ドドイをおぬしのフィールドに特殊召喚。更にドドイの効果。墓地に存在する害蟲「ガガをおぬしのフィールドに特殊召喚。」

相手フィールドに黒っぽい気色悪い蟲が大量発生する。ドドイがレイレイの体内から出てきたときは吐きそうになったな。

害蟲 ジャジャ

効果モンスター / 1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻2000 / 守0

このモンスターはリリースできない。このモンスターは相手フィールド上に通常召喚する。相手フィールド上に「害蟲」と名のついたモンスターが存在する場合、このモンスターを相手フィールド上に特殊召喚する。

害蟲 ガガ

効果モンスター / 1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻2000 / 守0

このモンスターはリリースできない。このモンスターは相手フィールド上に通常召喚する。このモンスターのコントローラーは自分のエンドフェイズ時にフィールド上に存在する「害蟲」と名のつい

たモンスターの数×500ライフダメージを受ける。

害蟲 ドドイ

効果モンスター / 1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻2000 / 守0

このモンスターはリリースできない。このモンスターは相手フィールド上に通常召喚する。相手フィールド上に存在するモンスターを1体墓地に送ってこのモンスターを相手フィールド上に特殊召喚する。このモンスターがフィールド上に召喚・特殊召喚されたとき墓地に存在する一番上の「害蟲」と名のついたモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

害蟲の卵

速攻魔法

デッキから「害蟲」と名のついたモンスターを2体選択する。そのうち1体を墓地に送り、もう1体を手札に加える。

「更に、吾は害蟲の巣を発動してカードを2枚伏せターンエンドだ。」

害蟲の巣

フィールド魔法

フィールド上の「害蟲」と名のついたモンスター（トークンを除く）が破壊されるとき、相手フィールド上に「害蟲トークン」（1 / 闇 / 昆虫 / 攻・守0）を特殊召喚する。

悠里

LP：4000

モンスター：なし

魔法・罫：害蟲の巣、伏せカード2枚

手札：0枚

「俺のターン、ドロー。」

「その瞬間、害蟲 ジギの効果発動。ダメージを受ける。」
「なに!？」

黒っぽい昆虫の足のついた泥から紫色の泥を投げられる天狗君。

天狗君LP4000-2000↓2000

「更に罨カード、害蟲の宴するフィールド上の「害蟲」と名のついたモンスターを3体破壊し、お主のメインフェイズとメインフェイズ2をスキップするぞ。更に害虫の巣の効果で3体の「害蟲トークン」をお主のフィールドに召喚する。」

害蟲の宴

通常罨

フィールド上の「害蟲」と名のついたモンスターを3体破壊し、相手のメインフェイズとメインフェイズ2をスキップする。

「ぐつ、俺は残った害蟲 ガガで攻撃。」

「罨カード害蟲増殖。お前のフィールド上の害蟲 ガガを墓地に送り墓地から害蟲 ドドイを表側守備表示でおぬしのフィールドに特殊召喚。更に効果で害蟲 ガガを表側守備表示でおぬしのフィールド上に特殊召喚するぞ。」

「もつ…許してくれえ…」

害蟲増殖

通常罨

相手フィールド上の「害蟲」と名のついたモンスターを墓地に送り墓地の「害蟲」と名のついたモンスターを1体、相手フィールド上に特殊召喚する。

「ぐつぐつぐすう。えっぐ、うつつターンエンドお……」

元・天狗君LP2000-2500↓-500

「うつ、うわーーーーーん！」

元・天狗君はなきながら走って逃げていった。

周りは恐怖の眼でこちらを見ている。

そして吾は……

「あれ？俺はなんでこんな所にいるんだ？俺は自分の部屋でオリカの「害蟲」デッキを作っていた筈なんだけどなあ？」

そもそも、覚えてすらいなかった。

後に十代や大地にもう少し加減しろと言われて、首を捻る俺だった。

第五話、いくぜ！月1デュエル！（後書き）

はい、すいません。

調子に乗りました。

「害蟲」は鬼畜デッキです。何もさせません。弱点としては強制転移や死のマジックボックスなどが上げられます。

他には激流葬やスキルドレインでしょうか？

ご意見待ってます。

第六話、何で負けてんだよ。十代っ！

こんにちはっ！（チヨコラン風に）

なぜか、夜中に明日香さんに呼び出されました。

「たすけてくれよー。悠里ー。」

「たすけてくださいっスー」

目の前には縄に縛られた十代と水色がいる。

十代は助けたいけど、水色は嫌だな。

えーと、現状を整理すると……

水色が覗きをする。↓十代が呼び出される↓なぜか負ける↓俺が呼び出される↓今ここ

「私とデュエルしてもらえるかしら、貴方が勝てば二人は開放してあげるわ」

別に十代だけでいいんですが……

まあ、がんばりますか。

「デュエル!!」

最近、この掛け声が恥ずかしくなってきた。

明日香LP4000

悠里LP4000

「私の先攻、ドロー。私はエトワール・サイバーを守備表示で召喚。そしてカードを3枚伏せてターンエンド。」

うん。この始まりは普通だな。

明日香LP4000

モンスター：エトワール・サイバー

魔法・罾：伏せカード3枚

手札：2枚

「俺のターン、ドロー。」

眠くないのかって？理由はともかく女性と会ってたんだ。

あんまりふざけてられないしな。

「俺は手札を1枚墓地に送り蒼穹の小鳥を特殊召喚。更に更に蒼穹の小鳥を墓地に送り、カードを2枚ドロー。魔法カード天使の施し。カードを3枚ドローし、2枚を墓地に送る。そして、蒼穹の復活。墓地の蒼穹の夜天竜を召喚。バトル、蒼穹の夜天竜で攻撃」

「その瞬間に罾カード攻撃の無力化を発動するわ」

へえ。

この世界ではやっぱり強いな。たぶん原作よりも少し強いかもしれない。

「メイン2。蒼穹の夜天竜を生け贄に捧げ、蒼穹の魔術師を召喚する。更に蒼穹の夜天竜の効果を発動。」

「その効果を発動するのを待っていたわ！罾カード天罰！手札を1枚墓地に送り蒼穹の夜天竜を破壊する！」

……まさか、このデッキの弱アンチ？

「俺はカードを2枚伏せ、ターンエンド。」

悠里LP4000

モンスター：蒼穹の魔術師

魔法・罾：伏せカード2枚

手札：1枚

「私のターン。ドロ―！私は伏せていた魔法カードハリケーン。」
「げえ……。1枚はブラフだけど蒼穹の樂園が……」

「続いて魔法カード天よりの宝札。カードを4枚ドロ―するわ。」
「うん。確実にこの人原作より強い。ドロ―でも差をつけてきたよ。」

「そして、魔法カード融合！フィールドのエトワール・サイバーと手札のブレード・スケーターを融合。サイバー・ブレイダーを攻撃表示で召喚！サイバー・ジムナクティスを守備表示で召喚して、効果を発動。手札を1枚墓地に送り蒼穹の魔術師を破壊する！！」
「うわー。少しやばいなー。」

「そして、サイバー・ブレイダーでダイレクトアタック！カードを2枚伏せてターンエンド。」

悠里LP4000・サイバー・ブレイダー2100↓1900

おお、初ダメージ。そして……

「このターンで終わらせる。ドロ―。魔法カード月の書。サイバー・ブレイダーを裏側守備表示に、そして手札の蒼穹の子猫を捨てて蒼穹の小鳥を特殊召喚。蒼穹の子猫の効果で2枚ドロ―。蒼穹の小鳥を墓地に送ってもう2枚ドロ―。そして蒼穹の兵士を召喚！効果で墓地の魔法カードを3枚除外して蒼穹の夜天竜を装備。そして蒼穹の契約！！」

ブルー・ヘヴン・クリスタル
蒼穹の結晶

速攻魔法

フィールド上のヘヴンモンスターを1体墓地に送り、デッキからレベル5以下のヘヴンモンスターを特殊召喚する。

さあ、ゲーム終了の時間だ。

「効果により蒼穹の兵士を墓地に送り、デッキから蒼穹の弓師を召喚し、更に蒼穹の兵士で蒼穹の夜天竜を墓地へ、そして蒼穹の夜天竜の効果で再度召喚。それから、蒼穹の兵士の効果を発動！」

ブルー・ヘヴン・アーチャー
蒼穹の弓師

効果モンスター・ヘヴン / 4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1700 / 守1500

このカードは墓地では魔法カードとして扱う。このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚されたとき、相手フィールド上の裏側表示のカードを1枚選択し確認する。そのカードの種類によって以下の効果が発動する。

- 通常モンスター：このターンこのモンスターは攻撃力を半分にしておいて相手プレイヤーにダイレクトアタックができる。
 - 効果モンスター：このカードの攻撃力を確認したモンスターの攻撃力分アップする。
 - 罠カード：自分のデッキから魔法カードを1枚手札に加える。
 - 魔法カード：自分の墓地から魔法カードを1枚手札に加える。
- その後、確認したカードを元に戻す。

「蒼穹の弓師の効果で裏側守備表示のサイバー・ブレイダーを確認。攻撃力を2100ポイントアップ。そして、さっきまではブラフだった蒼穹のバースト・レイ！！モンスターをすべて除外。」

「そ、そんな……」

なんか、明日香さんの顔が引きつってる。

まあ、仕方ないよね？

「そんじゃ、ついでに大嵐っつと。」

伏せカードはばらばらになって消えていく。

「全モンスターでダイレクトアタック！！」

「きゃあぁー！！！！！！」

明日香LP4000 - 蒼穹の兵士700 - 蒼穹の弓師3800(1
700+2100) - 蒼穹の夜天竜7000 ↓ - 7500

はあ、なんか疲れた。少しヒヤツとしたな。

「ほいじゃ、俺たちは帰るから」

「え、ええ。いいわ。」

無論、俺たちは俺と十代だ。水色？いたっけそんな奴。

「じゃあな。天上院。」

「明日香でいいわよ。悠里。」

「あつそ。また明日。」

ああ、早く帰って寝よう。

第六話、何で負けてんだよ。十代っ！（後書き）

はい、ユタさんに考えていただいた蒼穹の弓師が登場しました。
どうでしたか？

ほんとにはサイダー・ブレイダーの攻撃力二倍を狙っていました。
明日香さんは若干悠里対策を講じています。

次回、タイタンもどき。また来週か来月に会いましょう。

閑話、レッツ、タイタン

「明日香さーん、どこですかー」

俺は今、廃寮で迷子になった明日香さんを探している。
まったく、いい年して迷子とか……ないわー。

ってか、これってタイタンイベント？

あー、なんか変なおじさんがこっちに向かって走ってきましたよ。

「ぬ、貴様何者だ！」

「キャラ作るのやめたら？」

「うるさーい！デュエルだ！」

タイタンLP4000

悠里LP4000

……そういや、デュエルディスクつけたままだった。

ってか、タイタンって根っからのモブキャラだな。キメエ

「私はこれでターンエンドだ！」

考え事してたら、モブ君のターンが終了したらしい。

タイタン

LP4000

モンスター：ジェノサイドキングデーモン（攻2000）

魔法・罠：万魔殿 悪魔の巣窟、早すぎた埋葬

手札：3枚

「うん、雑魚だ。」

「なっ！なんだとおー！」

思わず口に出てたらしい。まあ、いいや。

「俺は手札を1枚墓地に送り、手札から蒼穹の小鳥を特殊召喚、蒼穹の小鳥を墓地に送り、2枚ドロー。……手札抹殺を発動、「なに！」「……やっぱり、デスルークを手札に残していたか。5枚ドロー、更に今墓地に送った蒼穹の子猫の効果で2枚ドロー。蒼穹の兵士を通常召喚。効果で蒼穹の夜天竜を装備。更に今、除外した蒼穹の子猫を1体特殊召喚。魔法カード、蒼穹の結晶。蒼穹の子猫を墓地に送り、デッキから蒼穹の天使を特殊召喚。ついでに、蒼穹の子猫の効果で万魔殿 悪魔の巣窟を破壊。」

蒼穹の天使 ブルー・ヘヴン・エンジェル

効果モンスター / 5 / 光属性 / 天使族 / 攻1600 / 守2600
このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。このモンスターが自分フィールド上に表側表示で存在するとき、自分の手札・フィールド・墓地の罫カードはすべて速攻魔法カードとして扱う。

「そして、魔法カードになった罫カード、蒼穹の破壊。早すぎた埋葬と……意味が無いがジェノサイドキングデーモンを破壊。そして、蒼穹の兵士を墓地に送る。そして、蒼穹の夜天竜の効果で再度特殊召喚。……ダメ押しだけど蒼穹の抜け道。手札を1枚と蒼穹の天使を墓地に送って、蒼穹の夜天竜を特殊召喚。このときに墓地に送った蒼穹の子猫の効果で2枚ドロー、ついでに蒼穹の復活。蒼穹の天使を特殊召喚」

うん、いじめだ。タイタン涙目だ。

蒼穹の破壊 ブルー・ヘヴン・デストラクション

通常罫

自分フィールド上に、レベル5以上のヘヴンモンスターが存在するときに発動できる。相手フィールド上のカードを2枚まで選択して破壊する。その後、自分フィールド上のヘヴンモンスターを1体破壊する。

「そんじゃ、最後に手札の蒼穹の幽霊を墓地に送って、効果発動。

蒼穹の夜天竜の攻撃力を上昇させ、総員攻撃」

「ギャアアアアアアアアアア!!!」

タイタンLP4000 - 蒼穹の夜天竜13900 - 蒼穹の夜天竜1
0000 - 蒼穹の天使1600 ↓ - 21500

おっ。最大攻撃力更新。

タイタンのびてるし、このまま帰っても……よいよね♪
グッバーイ。モブ君。

閑話、レッツ、タイタン（後書き）

計算がっらい。

第七話、俺は変人か？イエス。（前書き）

更新がものすごく遅くなり申し訳ございません。
それでは、どうぞ。

第七話、俺は変人か？イエス。

「なあ、悠里。」

「なんだ？大地？」

「俺ら、何でこんなところにいるんだっけ？」

「さあ？」

はろー。こんちは。一堂悠里です。

俺は今、かの有名な迷宮兄弟の前に立っています。

……なんか、二人からモブキャラのオーラが見えます。

因みに、どうしてこんなところにいるかというと。

明日香さんが困っていた。

←

十代と一緒に手伝いをする。

←

十代がタイタンと遭遇、倒す。

←

翌日、へんな組織に呼び出される。

←

タックデュエルしようぜ！

←

いまこじ。

と、いうわけです。はい。

「我ら！」「迷宮兄弟！」「……——」

うん、なんかモブ過ぎて言葉も聞こえなくなってきた。

「それでは、デュエル開始ナノーネ。」
元凶が……、少々ウザイですよ？

悠里&三沢LP8000
迷宮兄弟LP8000

「我らの「俺の先攻だ。ドロー。」
「「ぬうう」」

モブには悪いけど、なんかイライラが溜まってるのよね？だから、ぶつけてもいいよね？

さーて、手札は……

うん、オワタ。

「大地。」

「ん？どうした、悠里？」

「すまん。」

「は？」

「俺は手札から魔法カード援軍要請を発動。こちらのライフポイントを半分にして、デッキから軍隊兵士 突撃兵を2枚と軍隊兵士 奇襲兵を手札に加える。」

悠里&三沢LP8000↓4000

援軍要請

通常魔法

自分のライフポイントを半分支払い、自分のデッキから軍隊兵士と名のついたモンスターを3体選んで手札に加える。

「また見たことも無いようなカードを使うなあ……」

それは俺もだよ。大地。

デメリットが自分にも及んでいることを非難しないのは優しいな。

ま、これで試合終了だけど。

「そして、手札から軍隊兵士 砲撃兵を召喚する。そして、魔法力
ード軍隊式 軍事演習。手札の奇襲兵を墓地に送り、手札から突撃
兵を特殊召喚。そして、突撃兵の効果で2枚目の突撃兵を特殊召喚。
そして、また突撃兵の効果で狙撃兵を特殊召喚する。更に、魔法力
ード巨大化を狙撃兵に装備。」

軍隊兵士 砲撃兵

効果モンスター / 4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1200 / 守800
1ターンに一度、自分フィールド上の軍隊兵士と名のついたモン
スターを1体墓地に送ることで、そのモンスターの攻撃力分のダメ
ージを相手に与え、自分はその半分のダメージを受ける。

軍隊兵士 奇襲兵

効果モンスター / 4 / 地属性 / 戦士族 / 攻500 / 守200
自分フィールド上の軍隊兵士と名のついたモンスターを除外する
ことで、自分の手札または墓地に存在するこのモンスターを自分フ
ィールド上に特殊召喚する。自分が効果ダメージを受けるとき、自
分フィールド上に存在する。このカードを除外することでこのター
ン、自分への効果ダメージを0にする。

軍隊兵士 突撃兵

効果モンスター / 4 / 地属性 / 戦士族 / 攻1600 / 守1000
このモンスターの受ける戦闘ダメージはゼロになる。このモン
スターが攻撃宣言の対象になったときこのモンスターの表示形式は必
ず攻撃表示になる。このモンスターが特殊召喚されたとき、手札か
ら軍隊兵士と名のついたモンスターを一体特殊召喚する。

軍隊兵士 狙撃兵

効果モンスター / 4 / 地属性 / 戦士族 / 攻? / 守0

軍隊式 軍事演習

速攻魔法

「俺は、自分フィールド上の突撃兵を除外し、墓地の奇襲兵を特殊召喚する。」

大地……、ホントにゴメンな。

「砲撃兵の効果！俺は狙撃兵を選択し、モブーズに8000のダメージ。そして俺に4000のダメージだが、奇襲兵を除外することでこのダメージを0にする！」

「なんと――！」

君のキャラを更に薄くさせてしまって……、ゴメンよ、エアーマ

迷宮兄弟LP8000↓0

.....

あははははは。沈黙が痛い。

「……勝者、一堂悠里と……三沢……ペア？ ナノーネ？」

ははははははは、ごめんなさい！！（心の中は土下座）

たしかに、こりゃあペアとは言いにくいですよな。

もう、バーン系のデッキ使うの止めようかな……

第七話、俺は変人か？イエス。（後書き）

10/5 修正しました。突撃兵の効果の書き忘れを修正しました。

第8話、再びの月一デュエル

やってきました月一デュエル。

今日のデッキは久しぶりの蒼穹デッキです。
タイタン以来少々自粛していましたので。

「さて、今回のお相手は・・・は？」

あの一、これってなんかの見間違いないか？

『一堂悠里vs丸藤亮』

よし、自殺しよう。

「・・・おい。悠里一、何やっとなんじゃ？その縄は何に使うんじゃ？って、やめい！！首を括るな。一度ゆっくり話し合おうぜ。大丈夫、きっとみんな分かってくれるから。」

おお、友人Aこと・・・名前忘れた。

「ホントに大丈夫か？無理スナよ。」

「ありがとう。ミヤギ、俺は大丈夫さ。」

「いや、ミヤギって誰だよ。おい、ちょっとまつ、ミヤギって誰だよ
おおおお！？」

ホントにありがとう、ミヤギ。

さて、それから決闘場に上がって無言で構えて。

「デュエル！」

悠里 4000

カイザー 4000

「とりあえず、先攻はもらいます。俺のターンドロ。手札に存在する蒼穹の小鳥の効果を発動。手札を1枚墓地に送って特殊召喚。そして、魔法カード、蒼穹の復活。今墓地に送った蒼穹の夜天竜を特殊召喚。更に蒼穹の小鳥を墓地に送って2枚ドロ。魔法カード、天使の施しを発動。3枚ドロして2枚を墓地に、そのときに墓地に送った蒼穹の子猫の効果で更に2枚ドロ。」

うん、やっぱり子猫さんはチートです。ってか蒼穹シリーズがチートってかバグですね。わかります。

「さらに、モンスターを一体セット。カードを2枚伏せてターンエンド」

悠里4000

モンスター：蒼穹の夜天竜（攻撃力5000）、伏せモンスター1体
魔法・罫：伏せカード2枚
手札：4枚

「君とは一度戦ってみたかった。見たことも無いカードばかり使うようだからな。」

さいですか。

「オレのターン、ドロ。魔法カード、強欲な壺を発動。2枚ドロ。魔法カード、融合を発動。手札のサイバー・ドラゴン2体を融合、現れるサイバー・ツイン・ドラゴン！」

うん、攻撃力2800にしてはすごい迫力だ。

「更に、魔法カード、リミッター解除！この効果でサイバー・ツイン・ドラゴンの攻撃力は2倍の5600になる！」ならば、罫カード、蒼穹の樂園！手札を1枚墓地に送り、サイバー・ツイン・ドラ

「ゴンをこのターン除外する。」それにチェインして、融合解除！サイバー・ツイン・ドラゴンをエクストラデッキに戻し、サイバー・ドラゴンを2対特殊召喚する。」

「な、よけられた、だと？」

「更に、魔法カード、魔法再生を発動。墓地に存在するリミッター解除を手札に加える。そして・・・使いたくは無かったが仕方ない。魔法カード、パワー・ボンドを発動！！」

・・・マジ？

「再び、サイバー・ツイン・ドラゴンを召喚！！そして、リミッター解除！！サイバー・ツイン・ドラゴンで蒼穹の夜天竜に攻撃！！」
「ちよ、こんな喰らったら即死でしょーが！！」

「罨カード発動！、蒼穹の抜け道！！手札を1枚墓地に送り、蒼穹の夜天竜を墓地に送って、蒼穹の天使を守備表示で特殊召喚！！更に、蒼穹の夜天竜自身の効果で墓地に存在する魔法カードを除外して、守備表示で特殊召喚！！」

「なにつ！！」

「ふー、超・あせった。ここまで熱くなったのは久しぶりです。メツチャ冷や汗かいた・・・、アブねー。」

「くっ・・・、ならば、サイバー・ツイン・ドラゴンで蒼穹の天使に攻撃、撃破。更に伏せモンスターに攻撃。」

「ぐぬ、蒼穹の弓師が・・・、伏せカードが無いから効果は使えん。チクショー」

「これで、ターンエンドだ。」

カイザー4000↓1200

モンスター：なし

魔法・罠：なし

手札：なし

「俺のターン、ドロー。久しぶりにヒヤツとしたよ、カイザー。つか、あんた怖いわ！！死ぬかと思った・・・、蒼穹の夜天竜を攻撃表示に変更。ダイレクトアタック、ブルーヘヴン・バーストレイ！！」

「

カイザー4000 - 蒼穹の夜天竜7500↓ - 3500

「ありがとうございます。」

かなり、ヒヤツとした・・・

「ああ、ありがとう」

第8話、再びの月一デュエル（後書き）

カイザーの口調がわからない。
やっぱり、蒼穹はバグですね。

更新が遅れてすいませんでした。またいつか、お会いしましょう。

第9話、SAL襲来（前書き）

因みに今回、悠里は蒼穹の派生デッキを使います。

SALも凶悪なオリカを使います。

第9話、SAL襲来

(眠い……)

とある一日のことである。

俺、一堂悠里は朝からものすごい虚脱感に襲われていた。
もう、眠くて眠くて仕方が無く、結果俺は。

「ぐーー」

そのまま、熟睡した。

十代「あれ、悠里は？」

エアーマン「さあ？、三沢です。」

ふと、昼下がりを目を覚ましてみると俺の部屋に猿が、いや、SAL
しがいた。

「きつきー？」(てめえ、だれだ)

「きつきー、きつききー」(無礼な猿だな、手前から名乗れよ)

「ききききー、つききききき」(名前なんてなんだったっけな、
変な番号しかしらねえよ)

「きききー、十郎だつきー」(じゃ、十郎って呼ぶわ)

「きダツきー、きー？」(俺の名前かー、お前はなんていうんだ？)

「きき、きつき悠里きき、きつききききー」(おう、悠里って言
うが、頭のいい猿だなー俺の言葉を理解するなんて)

「……きるつききー、ききるきーだききー」(……いやお前こ
そ何者だよ、俺らの言語を理解するなんて)

「きつきききつきー、きるだききーつきー」(ふっ俺は所詮中二病
なのさ、作者の影響だが猿語なんて簡単だろうが)

「・・・ききるきーだるききつきー、きつききー!」(・・・もうお前怖いつてか俺も異常だな、さてデュエルしようぜ!)

「きつき・きー、きるききつきー十郎、ききるぎきー」(なにがさて、かは知らんが、受けてたとうではないか十郎、デッキならそこにあるデッキを使うといい)

「ききたきー」(さんきゅー)

「ききつき!」(デュエル!)

悠里4000

十郎4000

「ききー(日本語で話すぞ)、俺は魔法カード、天使の施しを発動。3枚ドローして2枚を墓地に送る。今捨てた蒼穹の子猫の効果を発動。更に、2枚ドロー」

「スゴイカードだな」

「さんきゅー、俺は更に、手札抹殺を発動。お互いは手札を全て墓地に送り、墓地に送った枚数だけドローする。俺は7枚ドロー。俺は魔法カード、強欲な壺を発動。カードを2枚ドロー。モンスターを一体セット、カードを2枚伏せてターンエンドだ。さらに、ターンエンド時に墓地に存在する蒼穹の飛竜の効果を発動。墓地に存在する魔法カードを9枚除外して、蒼穹の夜天竜を特殊召喚する。」

ブルーヘヴン・ワイバーン
蒼穹の飛竜

効果モンスター・ヘヴン / 5 / ドラゴン族 / 光属性 / 攻2300 / 守1800

このモンスターは墓地では魔法カードとして扱う。エンドフェイズ時、このモンスターが墓地に存在し自分フィールド上にヘヴンモンスターが表側表示で存在しない場合、自分の墓地の魔法カード扱いとなっているヘヴンモンスターを一体選択することができる。自

分の墓地の魔法カードをそのヘヴンモンスターのレベルと同じ数だけ除外することで、そのモンスターを特殊召喚することができる。

悠里4000

モンスター：蒼穹の夜天竜（攻3500）、伏せモンスター1体

魔法・罨：伏せカード2枚

手札：5枚

「オレノターン、ドロー。オレハ、『幻―悪夢ノ僕』ヲトクシユシヨウカン。ソシテ、ボチノモンスターヲ、スベテデツキニモドシ『究極封印神エグゾディオス』ヲトクシユシヨウカン。サラニ、『おろかな埋葬』ヲハツドウ。デツキヨリ『幻―宵闇ノ焰』ヲボチニオクル」

「げえー」

なんつーコンボを披露しますが、十郎。幻けっこー使いづらいのに。

幻―悪夢ノ僕

効果モンスター / 7 / 幻族 / 闇属性 / 攻？ / 守0

自分のライフポイントが相手以下の場合にこのモンスターは特殊召喚できる。このモンスターの攻撃力は相手のターンには0になる。このモンスターの攻撃力は自分の墓地に存在する幻族モンスターの数×500 - 自分のライフポイントの半分になる。

幻―宵闇ノ焰

効果モンスター / 5 / 幻族 / 火属性 / 攻1500 / 守0

このモンスターが墓地に存在するとき、自らの墓地に存在する魔法・罨・モンスターカードは 4・幻族・闇属性・通常モンスターとして扱う。この効果で通常モンスター扱いとなっている魔法・罨カードは魔法・罨・効果モンスターの効果の対象にすることはでき

ない。自分のライフポイントが1000以上のダメージを受けたとき、このモンスターを墓地・フィールド上から除外する。

「サラニ、『苦渋の選択』ヲハツドウ。オレガエラブノハ『強欲な壺』『幻―黒海ノ雷』『幻―黒海ノ雷』『幻―毒沼ノ骸』『幻―毒沼ノ骸』ダ。」

「俺は、幻―黒海ノ雷を選択する。」

幻―黒海ノ雷

効果モンスター / 4 / 幻族 / 光属性 / 攻1800 / 守0

自分のライフポイントが1800以下のときこのモンスターは戦闘で破壊されない。自分のライフポイントが相手より少ない場合、このモンスターは墓地から守備表示で特殊召喚できる。この効果で特殊召喚されたこのモンスターはリリースできず、破壊されたとき除外される。また、この効果は自分のメインフェイズにのみ発動できる。

幻―毒沼ノ骸

効果モンスター / 7 / 幻族 / 水属性 / 攻2900 / 守0

自分の幻族モンスターが除外されるとき、手札からこのモンスターを墓地に送ることで、その除外を無効にする。

十郎の墓地のモンスターカード5 ↓ 10

究極封印神エグゾディオスの攻撃力0 ↓ 10000

幻―悪夢ノ僕の攻撃力500 ↓ 3000

「お前、意外とえぐいな」

「ククク、オレハ、『究極封印神エグゾディオス』デ『蒼穹の夜天竜』ニコウゲキスル。コウカデ、デッキカラワイトヲボチニオクル。」

究極封印神エグゾディオスの攻撃力10000↓11000

「だが甘い。罨カード発動、蒼穹の楽園。手札を一枚墓地に送る。
エグゾディオスを除外しろ。」

「クツ、シカモ『蒼穹の夜天竜』ノコウゲキリヨクマデアガツタ力。
ナラバ、『幻―悪夢ノ僕』デフセモンスターニコウゲキ!!」

「だから、甘い!罨カード、蒼穹の戦争。手札を一枚捨て、攻撃対
象を蒼穹の夜天竜に移し変える。」
「グツ」

十郎4000↓2500

「オレハ、『幻―黒海ノ雷』ヲ1タイシユビヒヨウジデ、トクシユ
シヨウカン。カードヲ1マイフセ、ターンエンドダ。」

十郎2500

モンスター：究極封印神エグゾディオス（攻10000）、幻―黒
海の雷（守0）

魔法・罨：伏せカード1枚

手札：2枚

「俺のターン、ドロ。このターンで終わらせる。伏せモンスター
を反転召喚、伏せていたモンスターは蒼穹の弓師。効果発動、お前
の伏せカードを確認。」

「チッ、オレノフセカードハマハウカードノ『幻の群れ』ダ。」

「・・・ブラフか。効果発動、魔法カードだったので墓地から蒼穹
のバースト・レイを手札に加える。そして、発動。十郎のフィール
ド上のモンスターを全て除外する。」

幻の群れ

通常魔法

自分フィールド上のモンスターを一体リリースする。デッキ・手札からリリースしたモンスターのレベル以下の幻族モンスターを一体、召喚条件を無視して自分フィールド上に特殊召喚できる。

「悪いな、徹底的にやらせてもらう。俺はフィールド魔法、蒼穹の魔法事務所を発動する。さらに、蒼穹の弓師を生け贄に捧げ、蒼穹の魔術師を通常召喚。追加で魔法カード、蒼穹の結晶。効果により、墓地に存在する蒼穹の弓師を特殊召喚。効果により、再び十郎の伏せカードを確認、墓地から蒼穹の楽園を手札に加える。」

蒼穹の魔法事務所

フィールド魔法

フィールド上のヘヴンモンスターの攻撃力・守備力はお互いの墓地に存在する魔法カードの数×100ポイントアップする。スタンバイフェイズ時、手札からヘヴンモンスターを1枚墓地に送ることで、そのターンに受けるお互いの効果ダメージをゼロにすることができる。

「これで終わりだ。蒼穹の夜天竜で十郎にダイレクトアタック。ブルーヘヴン・バーストレイ!!!」

「チツ、オレノマケカ」

十郎2500 - 蒼穹の夜天竜5500 ↓ - 3000

「きつききーききき」（俺も学校通いてえな）

「じゃ、通うか？校長に小さなコネがあるぞ」

「きるきー？」（まじで？）

「おお、その前に日本語学んでこいよー」

「きー」（おー）

そんなこんなで、次に来た船に乗っていった十郎。因みに行き先は弱みを握っているタイタンの家。

いろいろなことを有耶無耶にして、悠里は新たな友を得たのだった。

なし

このたび、遊戯王GX オリカで無双の更新と停止し、新しく遊戯王GX オリカで無双（修正・改正）をスタートしたいと思います。いつ始めるかは分かりませんが・・・

いままで、こんな駄作を読んただきありがとうございました。

最後に、完全にネタで終わったハンターデッキをどうぞ。

「決闘！」

悠里 4000

十代 4000

「俺の先攻ドロ、俺は手札からハンター（攻・守1000）を攻撃表示で召喚。装備魔法、デーモンの斧をハンターに装備。ハンターの効果を発動、ハンターは装備魔法が装備されたとき、装備魔法一つにつき種族を一つ宣言する。ハンターは宣言された種族との戦闘では破壊されず、戦闘ダメージも受けない。俺は戦士族を選択、カードを1枚伏せ、ターンエンド。」

4000

ハンター（攻1000）【戦士族】

デーモンの斧^{ハンター}

伏せ1枚

「俺のターン、ドロー！」

こんな感じのデッキにする予定でした。

それではさようなら。

マタイツカ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0969u/>

遊戯王GX オリカで無双

2011年11月20日12時54分発行